



Policy Based Routing : ポリシーベースルーティング

この章では、ポリシーベースルーティング (PBR) をサポートするように Cisco ASA を設定する方法について説明します。この項では、ポリシーベースルーティング、PBR のガイドライン PBR の設定について説明します。

- [ポリシーベースルーティングについて \(1 ページ\)](#)
- [ポリシーベースルーティングのガイドライン \(4 ページ\)](#)
- [ポリシーベースルーティングの設定 \(4 ページ\)](#)
- [ポリシーベースルーティングの例 \(7 ページ\)](#)
- [ポリシーベースルーティングの履歴 \(15 ページ\)](#)

ポリシーベースルーティングについて

従来のルーティングは宛先ベースであり、パケットは宛先 IP アドレスに基づいてルーティングされます。ただし、宛先ベースのルーティングシステムでは特定トラフィックのルーティングを変更することが困難です。ポリシーベースルーティング (PBR) では、宛先ネットワークではなく条件に基づいてルーティングを定義できます。PBR では、送信元アドレス、送信元ポート、宛先アドレス、宛先ポート、プロトコル、またはこれらの組み合わせに基づいてトラフィックをルーティングできます。

ポリシーベースルーティング :

- 区別したトラフィックに Quality of Service (QoS) を提供できます。
- 低帯域幅、低コストの永続パスと、高帯域幅、高コストのスイッチドパスに、インタラクティブトラフィックとバッチトラフィックを分散できます。
- インターネット サービス プロバイダーやその他の組織が、さまざまなユーザセットから発信されるトラフィックを、適切に定義されたインターネット接続を経由してルーティングできます。

ポリシーベースルーティングには、ネットワーク エッジでトラフィックを分類およびマークし、ネットワーク全体で PBR を使用してマークしたトラフィックを特定のパスに沿ってルー

ルーティングすることで、QoSを実装する機能があります。これにより、宛先が同じ場合でも、異なる送信元から送信されるパケットを別のネットワークにルーティングすることができます。これは、複数のプライベートネットワークを相互接続する場合に役立ちます。

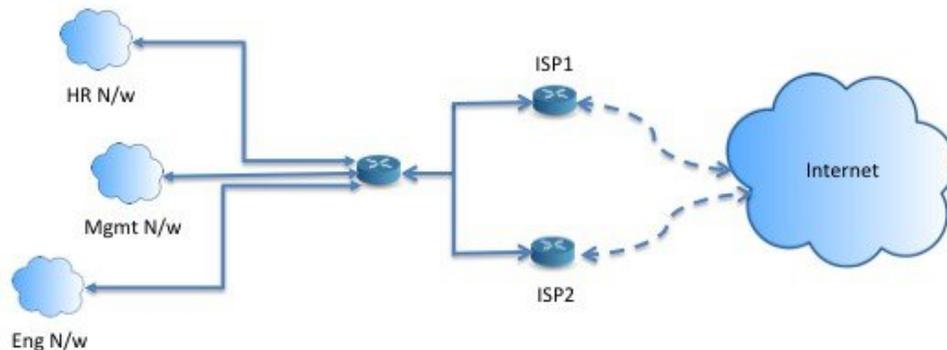
ポリシーベースルーティングを使用する理由

ロケーション間に2つのリンクが導入されている企業を例に説明します。1つのリンクは高帯域幅、低遅延、高コストのリンクであり、もう1つのリンクは低帯域幅、高遅延、低コストのリンクです。従来のルーティングプロトコルを使用する場合、高帯域幅リンクで、リンクの（EIGRP または OSPF を使用した）帯域幅/遅延の特性により実現するメトリックの節約に基づいて、ほぼすべてのトラフィックが送信されます。PBRでは、優先度の高いトラフィックを高帯域幅/低遅延リンク経由でルーティングし、その他のすべてのトラフィックを低帯域幅/高遅延リンクで送信します。

ポリシーベースルーティングの用途のいくつかを以下に示します。

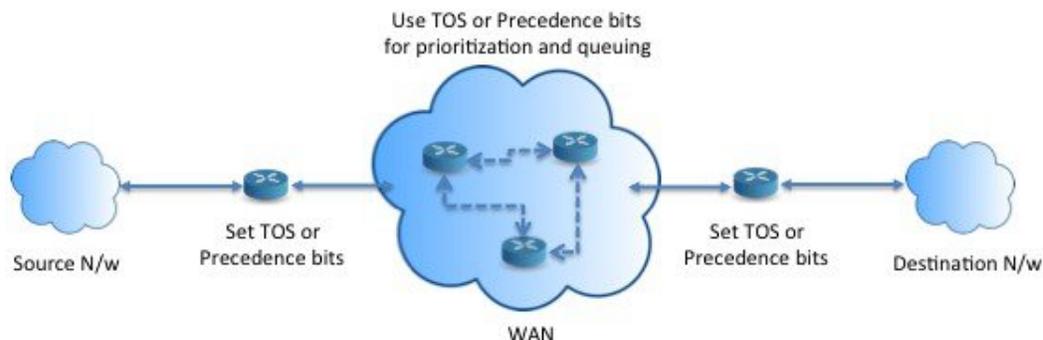
同等アクセスおよび送信元依存ルーティング

このトポロジでは、HR ネットワークと管理ネットワークからのトラフィックはISP1を経由するように設定し、エンジニアリングネットワークからのトラフィックはISP2を経由するように設定できます。したがって、ここに示すように、ネットワーク管理者は、ポリシーベースルーティングを使用して同等アクセスおよび送信元依存ルーティングを実現できます。



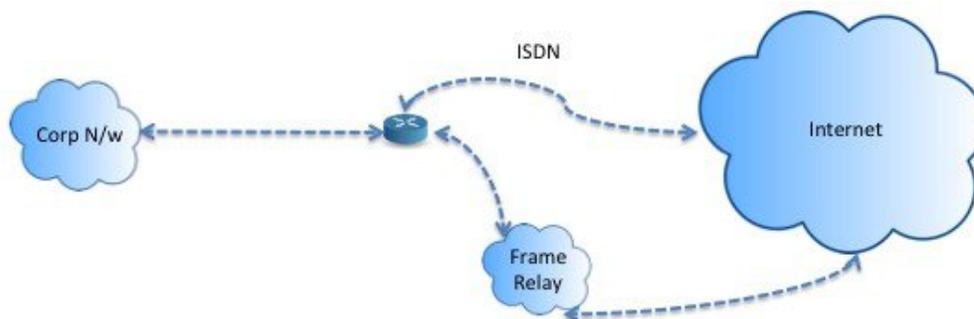
QoS

ネットワーク管理者は、ポリシーベースルーティングでパケットにタグを付けることにより、ネットワークトラフィックをネットワーク境界でさまざまなサービスクラスのために分類し、プライオリティ、カスタム、または重み付け均等化のキューイングを使用してそれらのサービスクラスをネットワークのコアに実装できます（下の図を参照）。この設定では、バックボーンネットワークのコアの各WANインターフェイスでトラフィックを明示的に分類する必要がなくなるため、ネットワークパフォーマンスが向上します。



コスト節約

組織は、特定のアクティビティに関連付けられている一括トラフィックを転送して、帯域幅が高い高コストリンクの使用を短時間にし、さらにここに示すようにトポロジを定義することで帯域幅が低い低コストリンク上の基本的な接続を継続できます。



ロードシェアリング

ECMP ロードバランシングによって提供されるダイナミックなロードシェアリング機能に加え、ネットワーク管理者は、トラフィックの特性に基づいて複数のパス間にトラフィックを分散するためのポリシーを実装できます。

たとえば、同等アクセスおよび送信元依存ルーティングのシナリオに示すトポロジでは、管理者は、ISP1 を経由する HR netto からのトラフィックと ISP2 を経由するエンジニアリングネットワークからのトラフィックをロードシェアするようにポリシーベースルーティングを設定できます。

PBR の実装

ASA は、ACL を使用してトラフィックを照合してから、トラフィックのルーティングアクションを実行します。具体的には、照合のために ACL を指定するルートマップを設定し、次にそのトラフィックに対して1つ以上のアクションを指定します。最後に、すべての着信トラフィックに PBR を適用するインターフェイスにルートマップを関連付けます。

ポリシーベース ルーティングのガイドライン

ファイアウォール モード

ルーテッド ファイアウォール モードでだけサポートされています。トランスペアレント ファイアウォール モードはサポートされません。

フロー別のルーティング

ASA はフロー別にルーティングを実行するため、ポリシー ルーティングは最初のパケットに適用され、その結果決定したルーティングが、そのパケットに対して作成されたフローに格納されます。同一接続に属する後続のパケットはすべてこのフローと照合され、適切にルーティングされます。

出力ルート ルックアップに適用されない PBR ポリシー

ポリシーベースルーティングは入力専用機能です。つまり、この機能は新しい着信接続の最初のパケットだけに適用され、この時点で接続のフォワードレグの出力インターフェイスが選択されます。着信パケットが既存の接続に属している場合、または NAT が適用されない場合には、PBR がトリガーされないことに注意してください。

クラスタ

- クラスタリングがサポートされています。
- クラスタのシナリオでは、スタティック ルートまたはダイナミック ルートがない場合、`ip-verify-reverse` パスを有効にした非対称トラフィックはドロップされる可能性があります。したがって、`ip-verify-reverse` パスを無効にすることが推奨されます。

その他のガイドライン

ルート マップ関連の既存のすべての設定の制限事項が引き続き適用されます。

ポリシーベース ルーティングの設定

ルート マップは、1 つ以上のルート マップ文で構成されます。文ごとに、シーケンス番号と `permit` 句または `deny` 句が付加されます。各ルート マップ文には、`match` コマンドと `set` コマンドが含まれています。`match` コマンドは、パケットデータに適用される一致基準を示します。`set` コマンドは、パケットに対して実行されるアクションを示します。

- 複数のネクストホップまたはインターフェイスを `set` アクションとして設定すると、使用できる有効なオプションが見つかるまですべてのオプションが順に評価されます。設定された複数のオプション間のロード バランシングは実行されません。
- `verify-availability` オプションは、マルチ コンテキスト モードではサポートされません。

手順

ステップ 1 スタンドアロンまたは拡張アクセス リストを定義します。

```
access-list name standard {permit | deny} {any4 | host ip_address | ip_address mask}
```

```
access-list name extended {permit | deny} protocol source_and_destination_arguments
```

例 :

```
ciscoasa(config)# access-list testacl extended permit ip  
10.1.1.0 255.255.255.0 10.2.2.0 255.255.255.0
```

標準 ACL を使用する場合、照合は宛先アドレスに対してのみ行われます。拡張 ACL を使用する
場合、送信元、宛先、またはその両方に対して照合を行えます。

IPv6 ACL はサポートされません。

ステップ 2 ルート マップ エントリを作成します。

```
route-map name {permit | deny} [sequence_number]
```

例 :

```
ciscoasa(config)# route-map testmap permit 12
```

ルート マップのエントリは順番に読み取られます。この順序は、*sequence_number* 引数を使用
して指定できます。この引数で指定しなければ、ルートマップエントリを追加した順序が ASA
で使用されます。

ACL には、固有の **permit** および **deny** 文も含まれます。ルートマップと ACL が **permit/permit**
で一致する場合、ポリシーベース ルーティング処理が継続されます。**permit/deny** で一致する
場合、このルート マップでの処理が終了し、別のルート マップがチェックされます。それで
も結果が **permit/deny** であれば、通常のルーティングテーブルが使用されます。**deny/deny** で一
致する場合、ポリシーベース ルーティング処理が継続されます。

(注) **permit** または **deny** アクションとシーケンス番号なしでルートマップを設定した場合、
このマップはデフォルトでアクションが **permit** で、シーケンス番号が 10 であると見
なされます。

ステップ 3 アクセス リストを使用して適用される一致基準を定義します。

```
match ip address access-list_name [access-list_name...]
```

例 :

```
ciscoasa(config-route-map)# match ip address testacl
```

ステップ 4 1 つ以上の **set** アクションを設定します。

- ネクストホップ アドレスを設定します。

set ip next-hop ip_address

複数のネクストホップ IP アドレスを設定できます。その場合、ルーティングできる有効なネクストホップ IP アドレスが見つかるまで、それらのアドレスが指定された順で評価されます。設定済みのネクストホップは、直接接続する必要があります。そうでなければ、set アクションが適用されません。

- デフォルトのネクストホップアドレスを設定します。

set ip default next-hop ip_address

一致するトラフィックに対する通常のルートルックアップが失敗すると、ASA はここで指定されたネクストホップ IP アドレスを使用してトラフィックを転送します。

- 再帰ネクストホップ IPv4 アドレスを設定します。

set ip next-hop recursive ip_address

set ip next-hop と **set ip default next-hop** はどちらも、ネクストホップが直接接続されたサブネット上に存在している必要があります。**set ip next-hop recursive** では、ネクストホップアドレスが直接接続されている必要はありません。代わりにネクストホップアドレスで再帰ルックアップが実行され、一致するトラフィックは、ルータで使用されているルーティングパスに従って、そのルートエントリで使用されているネクストホップに転送されます。

- ルートマップの次の IPv4 ホップが使用できるかどうかを確認します。

set ip next-hop verify-availability next-hop-address sequence_number track object

ネクストホップの到達可能性を確認するには、SLA モニタ追跡オブジェクトを設定できます。複数のネクストホップの可用性を確認するために、複数の **set ip next-hop verify-availability** コマンドを異なるシーケンス番号と異なるトラッキングオブジェクトで設定できます。

- パケットの出カインターフェイスを設定します。

set interface interface_name

または

set interface null0

このコマンドにより、一致するトラフィックを転送するために使用するインターフェイスが設定されます。複数のインターフェイスを設定できます。その場合、有効なインターフェイスが見つかるまで、それらのインターフェイスが指定された順で評価されます。**null0** を指定すると、ルートマップと一致するすべてのトラフィックがドロップされます。指定されたインターフェイス（静的または動的のいずれか）経由でルーティングできる宛先のルートが存在している必要があります。

- デフォルトのインターフェイスを null0 に設定します。

set default interface null0

通常のルートルックアップが失敗すると、ASA はトラフィックを null0 に転送し、トラフィックがドロップされます。

- IP ヘッダーに Don't Fragment (DF) ビット値を設定します。

```
set ip df {0|1}
```

- パケットに Differentiated Services Code Point (DSCP) または IP プレシデンスの値を設定することによって、IP トラフィックを分類します。

```
set ip dscp new_dscp
```

(注) 複数の set アクションが設定されている場合、ASA は、これらを次の順序で評価します。 **set ip next-hop verify-availability; set ip next-hop; set ip next-hop recursive; set interface;set ip default next-hop; set default interface**

ステップ 5 インターフェイスを設定して、インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。

```
interface interface_id
```

例 :

```
ciscoasa(config)# interface GigabitEthernet0/0
```

ステップ 6 ポリシーベース ルーティングを through-the-box トラフィック用に設定します。

```
policy-route route-map route-map_name
```

例 :

```
ciscoasa(config-if)# policy-route route-map testmap
```

既存のポリシーベース ルーティング マップを削除するには、単にこのコマンドの **no** 形式を入力します。

例 :

```
ciscoasa(config-if)# no policy-route route-map testmap
```

ポリシーベース ルーティングの例

以下のセクションでは、ルートマップの設定、ポリシーベース ルーティング (PBR) の例と、PBR の具体的な動作例を示します。

ルート マップ コンフィギュレーションの例

次の例では、アクションとシーケンスが指定されないため、暗黙的に **permit** のアクションと 10 のシーケンス番号が想定されます。

```
ciscoasa(config)# route-map testmap
```

次の例では、**match** 基準が指定されないため、暗黙的に **match** は「any」と見なされます。

```
ciscoasa(config)# route-map testmap permit 10
ciscoasa(config-route-map)# set ip next-hop 1.1.1.10
```

この例では、**<acl>** と一致するすべてのトラフィックが、ポリシールーティングされ、外部インターフェイス経由で転送されます。

```
ciscoasa(config)# route-map testmap permit 10
ciscoasa(config-route-map)# match ip address <acl>
ciscoasa(config-route-map)# set interface outside
```

次の例では、インターフェイスまたはネクストホップのアクションが設定されていないため、**<acl>** に一致するすべてのトラフィックの **dfbit** および **dscp** フィールドがコンフィギュレーションに従って変更され、通常のルーティングを使用して転送されます。

```
ciscoasa(config)# route-map testmap permit 10
ciscoasa(config-route-map)# match ip address <acl>
set ip df 1
set ip precedence af11
```

次の例では、**<acl_1>** に一致するすべてのトラフィックがネクストホップ 1.1.1.10 を使用して転送され、**<acl_2>** に一致するすべてのトラフィックがネクストホップ 2.1.1.10 を使用して転送され、残りのトラフィックはドロップされます。「**match**」基準がない場合、暗黙的に **match** は「any」と見なされます。

```
ciscoasa(config)# route-map testmap permit 10
ciscoasa(config-route-map)# match ip address <acl_1>
ciscoasa(config-route-map)# set ip next-hop 1.1.1.10

ciscoasa(config)# route-map testmap permit 20
ciscoasa(config-route-map)# match ip address <acl_2>

ciscoasa(config-route-map)# set ip next-hop 2.1.1.10
ciscoasa(config)# route-map testmap permit 30
ciscoasa(config-route-map)# set interface Null0
```

次の例では、ルートマップの評価は、(i) **route-map** アクション **permit** と **acl** アクション **permit** が **set** アクションを適用する、(ii) **route-map** アクション **deny** と **acl** アクション **permit** が通常のルートルックアップにスキップする、(iii) **permit/deny** の **route-map** アクションと **acl** アクション **deny** が次の **route-map** エントリを続行するといったものになります。次の **route-map** エントリを使用できない場合は、通常のルートルックアップにフォールバックします。

```
ciscoasa(config)# route-map testmap permit 10
ciscoasa(config-route-map)# match ip address permit_acl_1 deny_acl_2
ciscoasa(config-route-map)# set ip next-hop 1.1.1.10

ciscoasa(config)# route-map testmap deny 20
```

```

ciscoasa(config-route-map)# match ip address permit_acl_3 deny_acl_4
ciscoasa(config-route-map)# set ip next-hop 2.1.1.10

ciscoasa(config)# route-map testmap permit 30
ciscoasa(config-route-map)# match ip address deny_acl_5
ciscoasa(config-route-map)# set interface outside

```

次の例では、複数の **set** アクションを設定すると、それらのアクションが上記の順序で評価されます。set アクションのすべてのオプションが評価され、それらを適用できない場合にのみ、次の set アクションが考慮されます。この順序設定により、すぐに使用可能な最短のネクストホップが最初に試行され、その後、次のすぐに使用可能な最短のネクストホップが試行される、といったようになります。

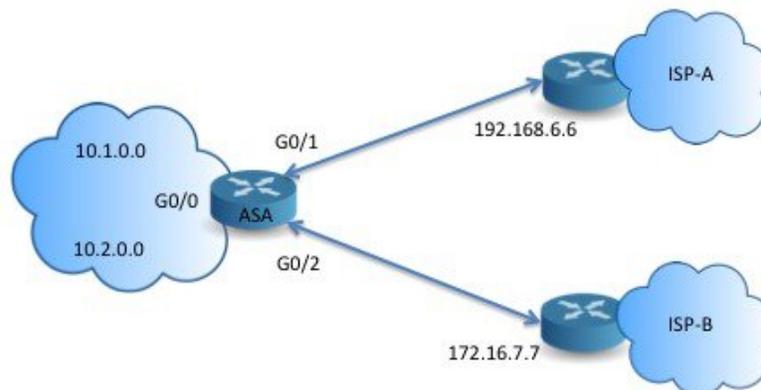
```

ciscoasa(config)# route-map testmap permit 10
ciscoasa(config-route-map)# match ip address acl_1
ciscoasa(config-route-map)# set ip next-hop verify-availability 1.1.1.10 1 track 1
ciscoasa(config-route-map)# set ip next-hop verify-availability 1.1.1.11 2 track 2
ciscoasa(config-route-map)# set ip next-hop verify-availability 1.1.1.12 3 track 3
ciscoasa(config-route-map)# set ip next-hop 2.1.1.10 2.1.1.11 2.1.1.12
ciscoasa(config-route-map)# set ip next-hop recursive 3.1.1.10
ciscoasa(config-route-map)# set interface outside-1 outside-2
ciscoasa(config-route-map)# set ip default next-hop 4.1.1.10 4.1.1.11
ciscoasa(config-route-map)# set default interface Null10

```

PBR の設定例

ここでは、次のシナリオ用に PBR を設定するために必要な設定の完全なセットについて説明します。



まず、インターフェイスを設定する必要があります。

```

ciscoasa(config)# interface GigabitEthernet0/0
ciscoasa(config-if)# no shutdown
ciscoasa(config-if)# nameif inside
ciscoasa(config-if)# ip address 10.1.1.1 255.255.255.0

ciscoasa(config)# interface GigabitEthernet0/1
ciscoasa(config-if)# no shutdown
ciscoasa(config-if)# nameif outside-1

```

```
ciscoasa(config-if)# ip address 192.168.6.5 255.255.255.0

ciscoasa(config)# interface GigabitEthernet0/2
ciscoasa(config-if)# no shutdown
ciscoasa(config-if)# nameif outside-2
ciscoasa(config-if)# ip address 172.16.7.6 255.255.255.0
```

次に、トラフィックを照合するためのアクセスリストを設定する必要があります。

```
ciscoasa(config)# access-list acl-1 permit ip 10.1.0.0 255.255.0.0
ciscoasa(config)# access-list acl-2 permit ip 10.2.0.0 255.255.0.0
```

必要なsetアクションとともに、一致基準として上記のアクセスリストを指定することで、ルートマップを設定する必要があります。

```
ciscoasa(config)# route-map equal-access permit 10
ciscoasa(config-route-map)# match ip address acl-1
ciscoasa(config-route-map)# set ip next-hop 192.168.6.6

ciscoasa(config)# route-map equal-access permit 20
ciscoasa(config-route-map)# match ip address acl-2
ciscoasa(config-route-map)# set ip next-hop 172.16.7.7

ciscoasa(config)# route-map equal-access permit 30
ciscoasa(config-route-map)# set ip interface Null0
```

ここで、このルートマップをインターフェイスに接続する必要があります。

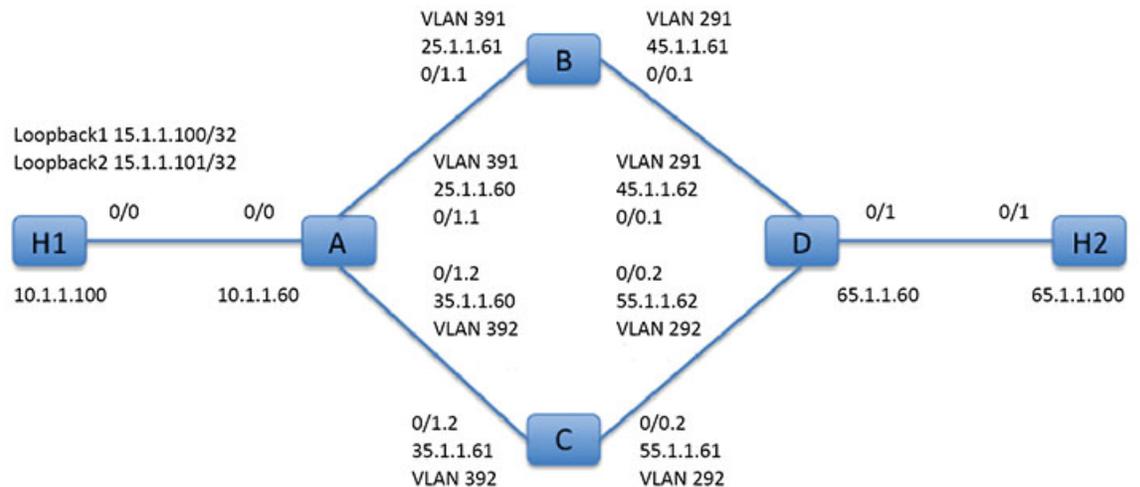
```
ciscoasa(config)# interface GigabitEthernet0/0
ciscoasa(config-if)# policy-route route-map equal-access
```

ポリシー ルーティング設定を表示するには：

```
ciscoasa(config)# show policy-route
Interface                Route map
GigabitEthernet0/0     equal-access
```

アクションでのポリシーベース ルーティング

このテスト設定を使用して、異なる一致基準およびsetアクションでポリシーベース ルーティングが設定され、それらがどのように評価および適用されるのかを確認します。



まず、セットアップに関するすべてのデバイスの基本設定から始めます。ここで、A、B、C、およびDはASA デバイスを表し、H1 およびH2 はIOS ルータを表します。

ASA-A :

```
ciscoasa(config)# interface GigabitEthernet0/0
ciscoasa(config-if)# nameif inside
ciscoasa(config-if)# security-level 100
ciscoasa(config-if)# ip address 10.1.1.60 255.255.255.0
ciscoasa(config)# interface GigabitEthernet0/1
ciscoasa(config-if)# no shut

ciscoasa(config)# interface GigabitEthernet0/1.1
ciscoasa(config-if)# vlan 391
ciscoasa(config-if)# nameif outside
ciscoasa(config-if)# security-level 0
ciscoasa(config-if)# ip address 25.1.1.60 255.255.255.0

ciscoasa(config)# interface GigabitEthernet0/1.2
ciscoasa(config-if)# vlan 392
ciscoasa(config-if)# nameif dmz
ciscoasa(config-if)# security-level 50
ciscoasa(config-if)# ip address 35.1.1.60 255.255.255.0
```

ASA-B :

```
ciscoasa(config)# interface GigabitEthernet0/0
ciscoasa(config-if)# no shut

ciscoasa(config)# interface GigabitEthernet0/0.1
ciscoasa(config-if)# vlan 291
ciscoasa(config-if)# nameif outside
ciscoasa(config-if)# security-level 0
ciscoasa(config-if)# ip address 45.1.1.61 255.255.255.0

ciscoasa(config)# interface GigabitEthernet0/1
```

```
ciscoasa(config-if)# no shut

ciscoasa(config)# interface GigabitEthernet0/1.1
ciscoasa(config-if)# vlan 391
ciscoasa(config-if)# nameif inside
ciscoasa(config-if)# security-level 100
ciscoasa(config-if)# ip address 25.1.1.61 255.255.255.0
```

ASA-C :

```
ciscoasa(config)# interface GigabitEthernet0/0
ciscoasa(config-if)# no shut

ciscoasa(config)# interface GigabitEthernet0/0.2
ciscoasa(config-if)# vlan 292
ciscoasa(config-if)# nameif outside
ciscoasa(config-if)# security-level 0
ciscoasa(config-if)# ip address 55.1.1.61 255.255.255.0

ciscoasa(config)# interface GigabitEthernet0/1
ciscoasa(config-if)# no shut

ciscoasa(config)# interface GigabitEthernet0/1.2
ciscoasa(config-if)# vlan 392
ciscoasa(config-if)# nameif inside
ciscoasa(config-if)# security-level 0
ciscoasa(config-if)# ip address 35.1.1.61 255.255.255.0
```

ASA-D :

```
ciscoasa(config)# interface GigabitEthernet0/0
ciscoasa(config-if)# no shut

ciscoasa(config) #interface GigabitEthernet0/0.1
ciscoasa(config-if)# vlan 291
ciscoasa(config-if)# nameif inside-1
ciscoasa(config-if)# security-level 100
ciscoasa(config-if)# ip address 45.1.1.62 255.255.255.0

ciscoasa(config)# interface GigabitEthernet0/0.2
ciscoasa(config-if)# vlan 292
ciscoasa(config-if)# nameif inside-2
ciscoasa(config-if)# security-level 100
ciscoasa(config-if)# ip address 55.1.1.62 255.255.255.0

ciscoasa(config)# interface GigabitEthernet0/1
ciscoasa(config-if)# nameif outside
ciscoasa(config-if)# security-level 0
ciscoasa(config-if)# ip address 65.1.1.60 255.255.255.0
```

H1 :

```
ciscoasa(config)# interface Loopback1
ciscoasa(config-if)# ip address 15.1.1.100 255.255.255.255

ciscoasa(config-if)# interface Loopback2
ciscoasa(config-if)# ip address 15.1.1.101 255.255.255.255
```

```
ciscoasa(config)# ip route 0.0.0.0 0.0.0.0 10.1.1.60
```

H2 :

```
ciscoasa(config)# interface GigabitEthernet0/1
ciscoasa(config-if)# ip address 65.1.1.100 255.255.255.0

ciscoasa(config-if)# ip route 15.1.1.0 255.255.255.0 65.1.1.60
```

H1 から送信されるトラフィックをルーティングするように ASA-A で PBR を設定します。

ASA-A :

```
ciscoasa(config-if)# access-list pbracl_1 extended permit ip host 15.1.1.100 any

ciscoasa(config-if)# route-map testmap permit 10
ciscoasa(config-if)# match ip address pbracl_1
ciscoasa(config-if)# set ip next-hop 25.1.1.61

ciscoasa(config)# interface GigabitEthernet0/0
ciscoasa(config-if)# policy-route route-map testmap

ciscoasa(config-if)# debug policy-route
```

H1 : ping 65.1.1.100 repeat 1 source loopback1

```
pbr: policy based route lookup called for 15.1.1.100/44397 to 65.1.1.100/0 proto 1
sub_proto 8 received on interface inside
pbr: First matching rule from ACL(2)
pbr: route map testmap, sequence 10, permit; proceed with policy routing
pbr: evaluating next-hop 25.1.1.61
pbr: policy based routing applied; egress_ifc = outside : next_hop = 25.1.1.61
```

パケットは、ルートマップのネクストホップアドレスを使用して想定どおりに転送されます。

ネクストホップを設定した場合、入力ルートテーブルで検索して設定したネクストホップに接続されたルートを特定し、対応するインターフェイスを使用します。この例の入力ルートテーブルを次に示します（一致するルート エントリが強調表示されています）。

```
in 255.255.255.255 255.255.255.255 identity
in 10.1.1.60      255.255.255.255 identity
in 25.1.1.60     255.255.255.255 identity
in 35.1.1.60    255.255.255.255 identity
in 10.127.46.17 255.255.255.255 identity
in 10.1.1.0     255.255.255.0   inside
in 25.1.1.0    255.255.255.0   outside
in 35.1.1.0    255.255.255.0   dmz
```

次に、ASA-A の dmz インターフェイスからの H1 loopback2 から送信されるパケットをルーティングするように ASA-A を設定します。

```
ciscoasa(config)# access-list pbracl_2 extended permit ip host 15.1.1.101 any

ciscoasa(config)# route-map testmap permit 20
ciscoasa(config-route-map)# match ip address pbracl
```

```

ciscoasa(config-route-map)# set ip next-hop 35.1.1.61

ciscoasa(config)# show run route-map
!
route-map testmap permit 10
  match ip address pbracl_1
  set ip next-hop 25.1.1.61
!
route-map testmap permit 20
  match ip address pbracl_2
  set ip next-hop 35.1.1.61
!

```

H1 : ping 65.1.1.100 repeat 1 source loopback2

デバッグを示します。

```

pbr: policy based route lookup called for 15.1.1.101/1234 to 65.1.1.100/1234 proto 6
sub_proto 0 received on interface inside
pbr: First matching rule from ACL(3)
pbr: route map testmap, sequence 20, permit; proceed with policy routing
pbr: evaluating next-hop 35.1.1.61
pbr: policy based routing applied; egress_ifc = dmz : next_hop = 35.1.1.61

```

さらに、入力ルートテーブルから選択されたルートのエントリをここに示します。

```

in  255.255.255.255 255.255.255.255 identity
in  10.1.1.60      255.255.255.255 identity
in  25.1.1.60      255.255.255.255 identity
in  35.1.1.60      255.255.255.255 identity
in  10.127.46.17   255.255.255.255 identity
in  10.1.1.0       255.255.255.0    inside
in  25.1.1.0       255.255.255.0    outside
in  35.1.1.0       255.255.255.0    dmz

```

ポリシーベース ルーティングの履歴

表 1: ルート マップの履歴

機能名	プラットフォーム リリース	機能情報
ポリシーベース ルーティング	9.4(1)	<p>ポリシーベースルーティング (PBR) は、ACL を使用して指定された QoS でトラフィックが特定のパスを経由するために使用するメカニズムです。ACL では、パケットのレイヤ3およびレイヤ4 ヘッダーの内容に基づいてトラフィックを分類できます。このソリューションにより、管理者は区別されたトラフィックに QoS を提供し、低帯域幅、低コストの永続パス、高帯域幅、高コストのスイッチドパスの間にインタラクティブトラフィックとバッチトラフィックを分散でき、インターネット サービス プロバイダーとその他の組織は明確に定義されたインターネット接続を介して一連のさまざまなユーザから送信されるトラフィックをルーティングできます。</p> <p>set ip next-hop verify-availability、set ip next-hop、set ip next-hop recursive、set interface、set ip default next-hop、set default interface、set ip df、set ip dscp、policy-route route-map、show policy-route、debug policy-route の各コマンドが導入されました。</p>

